

小倉肇教授 略歴・著作目録抄

学歴

- | | | | |
|-------|----|-------------------|----|
| 一九六五年 | 四月 | 國學院大學文学部文学科 | 入学 |
| 一九六九年 | 三月 | 國學院大學文学部文学科 | 卒業 |
| 一九六九年 | 四月 | 國學院大學大学院文学研究科修士課程 | 入学 |
| 一九七一年 | 三月 | 國學院大學大学院文学研究科修士課程 | 修了 |
| 一九七一年 | 四月 | 國學院大學大学院文学研究科博士課程 | 入学 |
| 一九七三年 | 三月 | 國學院大學大学院文学研究科博士課程 | 中退 |

学位

- | | | | |
|------------|------------|-------|--------|
| 一九七一年三月二〇日 | 「上代音韻史の研究」 | 國學院大學 | 文学修士 |
| 一九九四年六月二二日 | 「日本呉音の研究」 | 國學院大學 | 博士（文学） |

職歴（専任）

- | | | |
|-------|----|------------|
| 一九七一年 | 四月 | 麻布学園高等学校教諭 |
|-------|----|------------|

一九七三年 四月 國學院大學文学部国語学研究室助手

一九七四年一〇月 弘前大学講師（教育学部）

一九七九年 四月 弘前大学助教授（教育学部）

一九九一年一〇月 弘前大学教授（教育学部）

一九九四年 四月 弘前大学大学院教育学研究科修士課程教授

一九九九年 四月 関西学院大学文学部教授・同博士課程後期課程教授

職歴（併任・非常勤等）

弘前学院大学（一九七八～一九八三）、秋田大学教育学部（一九八七）、岩手大学教育学部（一九八六、一九九三、一九九五、一九九七）、山形大学文学部（一九九三）、弘前城東学園（一九九八～二〇一〇）、愛媛大学法文学部（二〇〇四）、群馬県立女子大学（二〇〇九、二〇一二、二〇一三）、NHK文化センター（一九八八～一九八九）、あすなろ尚学院（一九九一～一九九五）

賞 罰

今泉博士記念賞（一九九五年三月二四日）

編・著書

一九八八年一〇月 『津軽方言地図（全2冊）』（編著者 津軽書房）

- 一九九五年 一月 『日本呉音の研究（全4冊）』（新典社）
 二〇一一年 七月 『日本語音韻史論考』（和泉書院）
 二〇一四年 二月 『続・日本呉音の研究（全6冊）』（和泉書院）

論文等

- 一九六九年 五月 「『伊家流等毛奈之』について」 （『國學院雜誌』 70・5 國學院大學）
 一九七〇年 一月 「上代イ列母音の音的性格について」 （『國學院雜誌』 71・11 國學院大學）
 一九七〇年 二月 「上代音韻史の研究」（修士学位論文）
 一九七二年 一月 「宣命の構文について——「テシ……助動詞」をめぐって——」 （『日本文学論究』 32 國學院大學国文学会）
 一九七三年 三月 「日本靈異記の反切音註について」 （『今泉博士古稀記念 国語学論叢』 桜楓社）
 一九七四年 三月 「助詞「がに」の歴史——その起源をめぐって——」 （『国語研究』 37 國學院大學国語研究会）
 一九七七年 三月 「日本靈異記の同音字注——声母・声調について——」 （『国語研究』 40 國學院大學国語研究会）
 一九七七年 三月 「推古期における口蓋垂音の存在」 （『言語研究』 71 日本言語学会）
 一九七七年 九月 「新訳華嚴經音義私記の同音字注（上）——声母について——」 （『弘前大学教育学部紀要』 38）
 一九七八年 二月 「新訳華嚴經音義私記の同音字注（下）——韻母・声調について——」 （『弘前大学教育学部紀要』 39）
 一九七八年 九月 「金光明最勝王經音義字音攷（I）——資料篇（上）——」 （『弘前大学教育学部紀要』 40）

- 一九七九年 二月 「金光明最勝王經音義字音攷(Ⅱ)——資料篇(中)——」 (『弘前大学教育学部紀要』41)
- 一九七九年 八月 「助詞「がに」の史的変遷——「がね」「べく」との交渉をめぐって——」 (『弘前大学教育学部紀要』41)
- 一九七九年 九月 「田邊博士古稀記念 国語助詞助動詞論叢」 桜楓社
- 一九八〇年 九月 「金光明最勝王經音義字音攷(Ⅲ)——資料篇(下)——」 (『弘前大学教育学部紀要』42)
- 一九八一年 三月 「法華經單字反切攷(Ⅰ)」 (『弘前大学教育学部紀要』44)
- 一九八一年 三月 「上古漢語の音韻体系」 (『言語研究』79 日本言語学会)
- 一九八一年 三月 「合拗音の生成過程について」 (『国語学』124 国語学会)
- 一九八一年 九月 「法華經單字反切攷(Ⅱ)」 (『弘前大学教育学部紀要』46)
- 一九八三年 二月 「書評」 沼本克明著『平安鎌倉時代に於る日本漢字音に就ての研究』 (『国語学』135 国語学会)
- 一九八七年 三月 「上代日本語の母音体系(上)——オ列甲乙の合流過程に係わる問題——」 (『弘前大学国語国文学』9)
- 一九八八年 一〇月 「パソコンによるK W I C 漢字総索引作成の試み」 (『弘前大学国語国文学』9)
- 一九九〇年 六月 「(展望) 音韻(史的研究)——特集昭和63年・平成元年における国語学界の展望——」 (『国語学』161 国語学会)
- 一九九一年 一〇月 「韻書について(1)」 (『弘前大学教育学部紀要』66)
- 一九九二年 三月 「韻書について(2)」 (『弘前大学教育学部紀要』67)

一九九二年 三月 「韻鏡の術語（1）」

（『弘前大学国語国文学』14）

一九九三年 三月 「韻鏡の術語（2）」

（『弘前大学国語国文学』15）

一九九三年 四月 「日本呉音の研究」（博士学位論文）

一九九三年 七月 「オ列甲乙の合流過程に係わる問題——*u*と*o*の音相通現象をめぐる——」

（『小松英雄博士退官記念日本語論集』三省堂）

一九九八年 二月 「サ行子音の歴史」

（『国語学』195 国語学会）

二〇〇一年 三月 「「衣」と「江」の合流過程——語音排列則の形成と変化を通して——」

（『国語学』204 国語学会）

二〇〇三年 一月 「〈大為尔歌〉再考——〈阿女都千〉から〈大為尔〉へ——」

（『国語学』212 国語学会）

二〇〇三年 九月 「枕草子「少納言よ かうろほうの雪 いかならん」」（『日本文藝研究』55・2）

二〇〇四年 八月 「〈あめつち〉から〈いろは〉へ——日本語音韻史の観点から——」

（『音声研究』8・2 日本音声学会）

二〇〇五年 四月 「呉音系字音」

（『朝倉日本語講座2「文字・書記」』）

二〇〇六年六月～二〇〇七年三月 「『七音略』『韻鏡』の構造と原理（Ⅰ）～（Ⅳ）」

（『日本文藝研究』58・1、58・2、58・3、58・4 関西学院大学日本文学会）